

2010年6月12日 東日本区1998~2011ヒストリアン 吉田 明弘

まえがき

『Historian's View』も5号となりました。

月3回はハイペース過ぎるとのご指摘もあります。そのうち月1回にペースを落とします。

初めは、無理してでも頻発しないと、みなさんに気付いていただけないのです。気付いて、読んでいただいて、感想をうかがいながら、方針を決めたいと思っています。

まだ、どのくらい。エラそうでも許されるかの、間合いもつかめないのです。

若い頃に、観光バスに乗ったら、ガイドがマイクで休みなくしゃべり続けていました。「少し静かにしたらどうだ」と申しましたら、「最初が肝心なんです。ここでお客さんをペースに巻き込んでおかないと、後がやりにくいのです。」

『Historian's View』も最初は、とにかく発信して、様子を見たいとの思いがあります。

「発車、オーライ。」

国際・アジア地域大会と同年開催の区大会

第13回東日本区大会が終わりました。大会の様をお伝えしたり、感想を述べることは、半官半民の本通信の範囲ではありませんので、控えます。今大会の二つの特徴だけを述べます。

ひとつは、国際大会と同年に開催されたということです。

これまでに国内で国際的な大会と同年に開催された区大会は次のとおりです。大会名は通称、()内はホストクラブです。

- 1959年 第2回椿山荘アジア地域大会
第4回区大会(東京周辺クラブ)
- 1975年 第51回熱海国際大会
第30回区大会(沼津)
- 1988年 第58回京都国際大会
第43回区大会(三島・御殿場)

1993年 第15回神戸アジア地域大会
第48回区大会(京都洛中)

1999年 第18回十勝アジア地域大会
第2回東日本区大会(富士)
第2回西日本区大会(和歌山紀ノ川)

2010年 第69回横浜国際大会
第13回東日本区大会(富士五湖)
第13回西日本区大会(広島)

国際大会やアジア地域大会と同じ年に開催する区大会は、どうしても国際が優先されるために、ホストクラブは、そのしわ寄せをこうむります。

国内参加者の負担を軽減するために、区大会には、日帰り開催案、定款に定められている代議員会を中心とした縮小案も出てきます。しっかりやれ、しかし国際大会には影響を与えるなという、ダブルバインディングの要求が、どの大会でも出ました。

初めて日本で開催された1959年のアジア地域大会は、区大会と併催でした。1975年は御殿場東山荘で代議員会+αで日帰り開催でした。1988年には、会場との関係で縮小が不可能だったため、準備途中でホストクラブが変更になるという事態になりました。

今回も、同じような状況で、西日本区は1日で開催しました。富士五湖クラブの場合は、途中で、「区大会も国際大会も両方成功させよう」と、発想を切り替えました。

もうひとつの特徴は、ホストクラブが設立7年の若いクラブであったことです。

これまでに、クラブ設立後間もなく、ホストを務めたクラブは、次の通りです。

- 2年目 熱海 1965年大会
- 4年目 仙台青葉城 1984年大会
- 5年目 名古屋グランパス 1997年大会

6年目 福岡中央 1986年大会
京都トッピー 2002年大会

7年目 富士五湖 2010年大会

親クラブとの共同ホストでは、横浜とつか(1年目)、熊本阿蘇(2年目)、熊本ひがし(4年目)があります。東京北クラブは設立3年目で、1986年(5年目)に立候補しましたが、区役員会の投票で福岡中央クラブに決定しました。余談ながら、東京北クラブは、1987年大会では東京江東クラブにも負け、ホストをしたのは2001年大会、20歳の年でした。

富士五湖クラブよりも若いクラブはありました。しかし、同クラブにとっては、近くにクラブやYMCAがないこと、メンバー数15人であることなど、厳しい条件がありました。

毎月のクラブ例会・卓話の一覧表

今年度の原俊彦理事の具体的な施策のひとつに「クラブ例会卓話一覧表」の作成と配布がありました。これは「各クラブのブリテンを見ると面白そうな卓話がたくさんある。事前に情報をつかんで、公開し、交流を盛んにしたい」という思いから生まれました。

毎月、長谷川あや子書記が例会情報を集めて、一覧表にして、ワイズドットコムで発信し、クラブ会長には郵送もしました。

毎月26~31クラブから情報の提供がありました。カレンダーへの書き入れではなく、月々の一覧表ですから作業は大変ですが、それだけにアピール効果はありました。

1年間行ってみて、長谷川書記は、「関心は高かった。他クラブを訪問する人が増えたり、例会づくりの参考になった、という声もあった」と手ごたえを感じたそうです。公開を意識することによって、自らの例会を見直し、質の向上につながったという評価もありました。

Historian's View かつて「卓話バンク」も

卓話は、例会の要です。それだけに卓話者が決まらなくなると、アイデアが不思議なくらい出なくなり、クラブ役員会が異様に重苦しく

なるものです。

そのような時のために、1999 2000年度のアイディアマン区理事、中田靖泰さんが、「卓話者バンク」設置を提唱、実行しました。

全クラブに呼びかけて、自薦・他薦の卓話者と卓話内容を一覧表にして発表し、依頼したいクラブは、その中から条件の合う人を選べるという制度でした。30人ほどが登録され、区報に掲載されました。しかし継続できませんでした。

情報をとることが大変だったこと、更新がされ難く、発表に適切な発表手段がなかったことが原因でした。中田区理事はこの年度を、「ワイズインターネット元年」と位置づけしましたが、卓話バンクに流動性を持たせるほど、普及していませんでした。もう一歩だったのです。

今回は、情報の収集・発信にインターネットという“飛び道具”が威力を発揮しました。

今は、一覧表を見て、興味のある卓話を見つけて、他クラブを訪問し、ナマの話を聞いた上で、その場で自クラブの例会卓話を依頼するという剛の者も出てきています。

クラブ密度の低い地域のクラブでは、訪問はままならないでしょう。しかし卓話者の選び方、話の角度など、参考になります。

次年度は東日本区のウェブサイトにはクラブ例会や区・部・クラブの各種集会のカレンダーがタイムリーに掲載されると聞いています。

あとがき

区大会の主の主宰者である原俊彦区理事とホストクラブとが、昨年夏、原さんの河口湖にある別邸で打ち合わせをしたようです。「くノ一」ではありませんが、その日、厨房に入り込んだ女性から、「何の話かわからないけど、いつもにこやかな人たちが、凄く大きな声で話していました」と通報がありました。

理事とホストクラブは、表裏一体ですが、緊張関係もあります。これも一丸となるために必要な「時」であったのだろうと、区大会最後の原俊彦区理事の感謝の言葉から思いました。